

# Q&A

このコーナーでは、疾病や繁殖への質問、往診時には聞けなかったことや今更聞けないことなど、みなさんの疑問にNOSA I 職員がお答えます。同封のハガキやFAX等でお気軽にお寄せください。

今回は  
別海町西春別56歳の女性より

『以前、往診時に「黄体がついているというのは、牛の体がどのような状態になっているのか?」と獣医さんにお聞きしたところ、黄体には妊娠した時につく妊娠黄体と、定期的にめぐってくる黄体との二種類があって、一口で説明するには難しいものだとお答えいただきました。かけはしの誌面でわかりやすくもう少しだけ説明していただけたら幸いです』

この問いに、事業部損防検診室の櫻井直人獣医師が答えます!

黄体は、哺乳類の性周期や妊娠を語る上で、最も重要な組織の一つです。黄体を説明する前に、性周期をおさらいしてみましょう。

性周期には大きく分けて ①発情期 ②黄体期の二つがあります。発情期は文字通り「発情」の時期で、卵巣には大きな卵胞が存在しています。この卵胞からはエストロゲンという卵胞ホルモン(発情ホルモン)が分泌され、発情兆候が発現します。続いて排卵が起こり、発情が終了します。

この排卵が起こった後に黄体が形成されます。つまり、排卵が行われない限り、黄体は形成されません。排卵後7日程度で黄体は成熟し、開花期黄体となりま

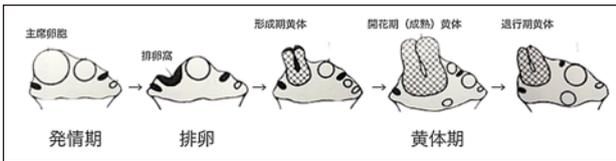


図1) 黄体のでき方



機能的(妊娠)黄体

膜の細胞を増殖したり、子宮自体を柔らかくして受精卵が着床しやすくなりする働きがあります。このときに受精卵が着床して妊娠が成立すれば、黄体は「妊娠黄体」となり、分娩まで持続することになります。

このときは黄体ホルモンが大量に分泌されています。そのため発情ホルモンは分泌されず、発情兆候も示さなくなります(妊娠牛が発情兆候を示さないのはこのため)。

しかし、残念ながら受精卵が着床しなかった場合、開花期黄体は排卵15日目頃から徐々に機能を失い、縮小します(退行と言う)。このとき黄体の退行に従い、黄体ホルモンの分泌量も減少してきます。これが引き金となり、次の発情のために新たな卵胞が成熟してきます。この卵胞から発情ホルモンが分泌されて、新たな発情が始まります。この一連の流れを「性周期」と呼び、牛では約21日間隔(人では28日間隔)です。

- ① 発情期があり、排卵する。
- ② 排卵した場所に黄体ができる。
- ③ 黄体からは黄体ホルモンが分泌されている。
- ④ 無事に受精卵が子宮に着床すれば「妊娠黄体」になる。
- ⑤ 妊娠が成立しなければ、黄体は性周期後半に退行する。

こんな感じになります。

最後に余談をひとつ。繁殖障害の治療でCIDR(保険給付外)を利用する機会が増えてきました。この薬剤には大量の黄体ホルモンが含まれており、このホルモンは皮膚からも吸収されます。CIDRの取り扱いには細心の注意を払い、女性ではさるだけ触れない方がよいと思えます。やむを得ず触れる場合も、必ず手袋をして、「ひも」の部分を持つようにして下さい。

診療や薬剤に関して、また獣医学的な点がありましたら、往診や検診に来た獣医師に遠慮なく質問して下さい。



CIDRの取扱いには最新の注意を!